

大事なことはモチベーションの維持!



取得した資格：技術士（建設部門：道路）
資格取得年度：令和2年度

きのしたながしげ*
木下長茂*

1. はじめに

「私は技術士を持っています」

14年前の研修の講師（先輩職員）が言われたこの言葉は、今でも強く印象に残っています。先輩の講義に感銘を受け、いつか先輩のようになりたいと憧れました。

私には元々、技術士資格に対して大きな誤解がありました。それは、特殊な経験がないと技術士になれないのではという先入観です。

2. 受験の動機・経緯

前述の先入観から、コンサル等との協議において、技術士を持つ技術者になかなか意見が言えない自分がいました。また、地元説明会等で自分の意見に自信を持ってない経験がありました。

そんな自分への腹立たしさや、自分の意見をより自信を持って伝えたいという思いから、出先事務所への異動で道路部局に配属されたタイミングで、資格取得を決意しました。繰返しになりますが、特殊な経験は必要ありません。本格的に二次試験の勉強に取り組み始めた際に、その事に気付きました。

3. 試験に向けたポイント

ここからは、私が用いた二次試験の対策を中心に、試験のポイントについてお伝えします。

1) 実務経験証明書の作成

4月に申込書を提出しますが、ここから試験は始まります。実務経験証明書の業務内容が、口頭試験における質問のネタになります。特に「業務内容の詳細」は重要で、口頭試験の質問の半分はこの関連でした。

記載する文字数は制限されるため、①立場と役割、②課題と問題点、③技術的解決策、④成果について簡潔に書く必要があります。特に、課題（理想との差）、問題点（理想を満たせない原因）、解決策についての整理が重要です。細やかな内容については、口頭試験において説明することもできます。

私は、「業務内容の詳細」に災害復旧工事の経験を記載しましたが、

- ①工事用道路が狭隘なため4tダンプを活用
- ②大規模盛土の急速施工のため真砂土を活用
- ③排水機能の確保のため排水施設を増強
- ④住民意見を踏まえ排水施設を2系統化

という内容です。文章では伝えにくいですが、購入土で盛土を行い、新たな排水施設を別ルートで確保ただけです。自分の立場や役割、解決策等を簡潔に書くことが重要です。

複雑な取組みを書き過ぎると、口頭試験で不利になる可能性があります。口頭試験の限られた時間で、面接官に内容を説明する必要があるからです。

*兵庫県 但馬県民局 豊岡土木事務所 河川砂防課長

2) 筆記試験の対策

筆記試験では、600字詰め（24字×25行）の原稿用紙に午前3枚、午後6枚の論文を作成します。

まず、論文の構成について先輩技術者の添削を仰ぎました。知識や経験があっても、内容を適切に読みやすく整理して書き出せなければ、合格は難しいと思います。

論文の構成として、議題に対して「A」「B」「C」の3つのキーワード抽出します。例えば、道路緑化の目的として、「防災（延焼防止）」「施設帯（空間）の確保」「快適な交通空間の確保」を抽出するといった具合です。このキーワードを見出しに改行し、内容について説明していきます。

この論文の構成を身に付け、キーワードについて説明する練習を続けました。参考書の回答例を読み込むよりも、自分の言葉による論文作成が効果的な訓練になりました。日常業務の資料作成においても、この手法を意識しました。

また、このキーワードの知識を広げるため、国土交通白書や道路構造令、国土交通省のHP（重要政策）を繰り返し勉強しました。

3) 口頭試験の対策

口頭試験は東京で行われます。実務経験、技術者倫理、継続研鑽等について20分程度質疑があります。

受験後の印象として、面接官をお客だと思って感情的にならず丁寧に、端的にまず結論を、落ち着いて自信を持って答えることが重要であると感じました。

まず、先輩技術者の指導の下、実務経験の証明書の「業務内容の詳細」を3分で説明する文章を作成しました。これを見ずに話せるよう繰り返し練習しました（これが一番苦労しました）。また、受験の動機、業務経歴、技術者倫理、継続研鑽、リーダーシップ、時事問題等を、160項目程度のQAに整理しました。QAに整理したことで、自信を持って試験に臨めた

と思います。

筆記試験の合格発表から口頭試験まで、約6週間しかありませんでした。そのため、先輩方の資料を参考に、急いでQAを作成しました。特に技術者倫理については、試験後は忘れてもいいと思いながらひたすら暗記しました。

4. 受験者へのアドバイス、励まし等

合格するために最も大事なことはモチベーションの維持だと思います。私は『令和2年度に技術士試験に合格した！』の張り紙を見ながら、合格を信じて勉強に取り組みました。幸い2度目の挑戦で二次試験に合格できましたが、正直1度目の方が感触はよかったです。可否には相性等も影響すると思います。

技術士試験は、ICTや週休2日、建設業の担い手確保など、国土交通省の施策を題材とする問題が多いと思います。そのため、公務員には答えやすい問題も多いのではないかと感じます。

公務員が技術士を取得することは、公共工事の品質確保、公衆の利益の確保、ひいては将来の担い手の確保に繋がると考えています。次は総合技術管理部門に挑戦します。皆様も、技術士試験にチャレンジしてみませんか。

5. おわりに

受験にあたり、幾度にも渡る論文の添削や、口頭試験をサポートしていただきました先輩技術者に深く感謝を申し上げます。

これから受験される皆様への確かなアドバイスができるよう、継続研鑽に努めていきたいと思っています。

【著者紹介】 木下 長茂（きのした ながしげ）

平成10年度兵庫県入庁（土木職）。豊岡土木事務所と洲本土木事務所 で道路改良や維持修繕事業を担当。その他、下水道、交通政策、行財政改革、研修、占用の技術審査などの職務を経て現職。